

令和2年 2月25日

富良野市議会議長 黒岩岳雄 様

経済建設委員長 石上孝雄

## 委員会事務調査報告書

令和元年第4回定例会において、継続調査の許可を得た事件について、下記のとおり結果を報告します。

### 記

1. 調査案件  
調査第6号 除排雪について
2. 調査の経過及び結果  
別紙のとおり

## 除排雪について

経済建設委員会より、調査第 6 号「除排雪について」の調査経過と結果を報告する。本委員会では、担当部局に資料の提出と説明を求め、除排雪業務の現状と課題の把握に努めるとともに、市道各路線における除排雪の状況と市内堆積場の状況を確認するために、現地確認も合わせて行いながら調査を進めてきた。

令和元年度の除雪業務は、雪割り除雪や仲通り除雪も含めた車道で 566.1 キロメートルと市道実延長 671.5 キロメートルに対し 84.3%、歩道で 63.4 キロメートルと歩道実延長 87.1 キロメートルに対し 72.8% で実施している。昨年度と比較すると、一般路線、仲通り、歩道の除雪は減少しているものの、車道の雪割り除雪で対応する路線が増加している。除雪の出動基準は午後 9 時から翌午前 1 時まで、市内 60 地点の降雪状況や晴天時の強風による吹き溜まりと凍結の状況をパトロールし、新たな積雪が 10 センチメートルに達したとき、わだちや暖気、降雨による路面状況の悪化や吹き溜まり、凍結が認められるときを出動基準としている。作業は午前 4 時から始め、主要な幹線道路と歩道は午前 7 時 30 分まで、生活道路は午前 9 時まで完了させ、通勤通学に支障をきたさないような体制を整えている。しかし、大雪や強風など天候不良の度合いによっては作業の遅延や、やむをえず出動できない場合もある。

次に排雪業務は、一般路線の除雪対象路線延長 409.2 キロメートルの 23.8% にあたる 97.3 キロメートルで実施し、積雪状況に鑑みながら出動している。また、これとは別に交差点に雪が積み上がり見通しが悪くなる前に、小まめに切り取り排雪を行うなど除雪レベルの向上に努めてきているところである。

除排雪の車両の体制は、市が所有する 20 台と委託先の事業者が所有する 30 台の合計 50 台が業務にあたっている。また、市が所有する車両の更新は、老朽化の著しい車両から順次入れ替えによって更新している。組織の体制は、平成 26 年度から市内事業者で構成される富良野維持管理協同組合に一括委託し、除排雪費用の節減、地区を超えた柔軟な対応、除排雪作業に係る技術の継承などを目指している。ここ数年では、若い方への技術継承を目指して、新しい方が業務を担う機会も増えつつあったが、オペレーターに対する過度な要求への対応に苦慮し、離職してしまうという課題が出てきている。

除排雪に要する費用は、年平均で 3 億円を超えるような状況になりつつあるが、除排雪に関する意見や苦情の内容も多岐にわたってきている。市民から寄せられる意見として、「間口処理の問題」「基準に満たない状況下での出動要請」「規定以上の除排雪要求」など、出動後の仕上がりに関するものが多くあげられている。車両と歩行者の双方が安全に通行できる道路環境を追求しなければならないが、歩道の除雪に対する個別の要望を寄せられることもあり、除雪費用がかさむ要因にもなっている。

市内の現地調査では、末広町、栄町、春日町、東町、桂木町、西町、大沼、鳥沼、富丘、布礼別、麓郷、老節布、東山、山部、山部市街、五区、清水山、東西学田二区の各市道路

線と五条大橋雪堆積場を巡回してきた。今期のような小雪と言われる降雪状況にあっても、市民雪捨て場の利用、持続的な除排雪体制の確保、歩道の除雪、市民との協働による体制の構築について課題があるように感じられた。

以上の現状をもとに、意見交換を行ったところ、次の4点について意見の一致をみた次第である。

#### 1．安定的な除排雪体制を維持するための人員確保について

冬期間も市民が安心して暮らせる安全な道路環境を確保し、持続的な除排雪体制を維持するためには、その基礎となるオペレーターの確保と育成は不可欠である。その一助として、今後は人員の確保と育成に配慮して経費率の引き上げや業務委託内容の検討、研究を進められたい。

#### 2．市直営と富良野維持管理協同組合（委託事業者）との役割分担について

ひと冬ごとに業務委託契約をしていることから、市直営が先んじて出動するのではなく、富良野維持管理協同組合への指示出しや出動の様子を見守り、組合の出動を総動員させても危険箇所が解消されない場合にのみ市直営が出動することとし、組合による除排雪業務を基本とすることが望ましい。また、今年度のような小雪の際は、この役割分担を特に徹底し、市直営は新しくオペレーターになった方の技術力向上に取り組まれたい。

#### 3．郊外部における歩道の除雪について

宿泊施設や観光施設が立地する郊外部では、冬期においても歩行者がおり、特に車道を歩いている事案が散見される。歩行者の実態把握と除雪すべき路線を選定し、市民・観光客の安全確保に努められたい。

#### 4．除排雪に要する費用の縮減について

前述のとおり、富良野市の除排雪にかかる事業費は年平均で3億円を超えるような状況になりつつある。少子超高齢社会と人口減少社会に対応した除排雪を行うためには、市民一人ひとりの協力が不可欠となる。地先や歩道の雪を置く場所に苦慮している地区については、遊具もなく雪を排出しても支障のない市有の緑地や公園への雪出しの検討や、排雪を委託された小規模事業者による市内3カ所に設けられている市民雪堆積場の利用を可能とする体制の構築などが必要であると考えらる。

また、除排雪作業の直後にもかかわらず車道に雪を堆積させたり、川に大量の雪を投げ入れたりする行為が見受けられることから、引き続き市民への協力要請と啓発活動を粘り強く続けていく必要がある。

以上、本委員会の議論内容を述べてきたが、除排雪業務は市民が冬期間も快適に生活することができる基盤を守る根幹となる公共サービスである。今後も市民が安心して暮らせる安全なまちづくりに寄与するためにも、持続的な除排雪体制の推進に努められたい。